

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1 人と川とのかかわりを考える活動

平成16年7月13日、見附市は市内を流れる刈谷田川が氾濫し、大きな被害を受けた。当校も1階が浸水、帰宅不能の児童と教職員が学校で一夜を過ごしたという経験をしている。刈谷田川が流れる当校学区には、ヤマタノオロチ伝説が伝わっており、かつて蛇行していた刈谷田川が太古から五穀豊穡をもたらすとともに、人々を洪水で苦しめていたことが想像される。当校では、この伝説をもとに児童劇「草薙龍」をつくり、昭和54年から毎年、児童が地域住民・保護者らに披露しており、児童の自慢になっている。この劇をきっかけにして、人と川とのかかわりを考える活動を積み重ねている。

1・2年生は、生活科の学区探検の中で、河川敷の桜並木の美しさなど川の景観を楽しんだり、国語の昔話調べで、ヤマタノオロチ伝説が劇「草薙龍」と同じ話であることに気付いたりした。

3年生は、総合的な学習の時間に、自分たちが演じている「草薙龍」の由来を伝説の伝わる神社に調べに行った。オロチや龍が刈谷田川をたどっていたものであることに気付いた。

4年生は、社会科で刈谷田川の改修の歩みを学ぶ。人々が多くの犠牲を出しながらも、蛇行を徐々に改修してきたことや、現代も遊水地を造成するなどして防災の対策を講じていることを知った。

5・6年生は、総合的な学習や理科で、洪水のメカニズムや川にかかわる環境問題、川は人の生活にとって欠かせないものであることなどを学んだ。

2 洪水から身を守る方法を学ぶ

全校による定期的な避難訓練の他、避難・救命のスキルが身につくように、見附市消防本部主催の市内各小学校への出前授業「応急処置学習」を毎年受けている。低学年は「危険な場所確認とけが発見時の大人への通報」中学年は「けがの応急処置と救急通報訓練」高学年は「心配蘇生術」を中心に行っている。

また、第5学年の総合的な学習の時間のテーマを「防災」とし、水害を中心に学習を進めてきた。8月には1泊2日の防災スクールを行い、下記のような学習を行った。さらに、12月には5年生が4年生を相手にこれまで学習したことを伝える総合学習発表会を行った。

- (1) ハザードマップによる浸水想定、現地での避難所・避難方法の確認
- (2) 身近な素材による担架作りと搬送体験、着衣泳、スローロープ等のレスキュー体験
- (3) 様々な非常食を食する体験や炊き出しの体験
- (4) 遊水地など、洪水を防ぐための施設見学等の学習

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）